

うつと似て非なる症状 アパシーについて

共通教育科 准教授 佐藤晋爾

みなさんはアパシーという言葉をご存知でしょうか？

アパシー (apathy) とは、ギリシャ語の a=失う、pathos=感情・苦悩を組み合わせた言葉です。ちなみに、pathos は英語でもそのまま同じ意味で使われています。有名なベートーベンの曲で、「情熱 (熱情)」という副題のあるピアノ・ソナタがありますが、英語では「The pathetic sonata」ですね。・・・おっと本題に戻りますと、以上のような理由から、アパシーとは感情や苦悩を失ってしまうという状態を指す症状なのです。

「苦しみがなくなる？結構ではないですか」という声も聞こえてきそうですが、しかし大切な感情もなくなってしまうのです。当然、喜びや楽しいと感じる心地よさ、美しいと感激する気持ちなども消えてしまうわけです。また苦悩という感情は、何かを創造する時や、注意してことにあたらなければならない時などに必要な側面もあります。ですから、まったく悩みがないという状態も本来は好ましくないのです。

アパシーと似たような状態は、意識がもうろうとしている時にも起きますが、アパシーは意識がはっきりしているにも関わらず生じる症状です。はたから見ていると、「何もしない」不活発な状態で、日がな一日、同じ姿勢でぼんやりとしているようになります。一方ご本人の主観では、「何もする気にならなrai」「つらいこともないし、何とも思わないから、このままでいい」というような状態になります。アパシーは、認知症の初期、脳卒中や頭部外傷の後遺症、パーキンソン病とその近縁疾患、甲状腺機能障害などのホルモン異常、薬剤の副作用などでおきることが知られています。

さて「何もしたくなくなる」というと、うつ病をお考えになる方が多いのではないのでしょうか。最近、講演会、テレビやラジオの健康番組、雑誌の特集などでうつ病が取り上げられることが多くなりました。そのため、うつ病では「何もする気になれない」「やる気が出ない」といった症状が出るのが、広く知られるようになってきていると思います。これらの症状はまさにアパシーそのものなので、うつ病と非常に似ていることがお分かりいただけるでしょう。しかし、確かに両方とも外面的には不活発という点は似ているのですが、実は内面的には全く正反対なのです。先ほどご説明した通り、アパシーは内面的には「苦痛、悩みがない」「無関心」なのですが、うつ病はむしろ「苦痛、悩みが強い」、無関心どころか「あれこれ気にして考えあぐねる」ものなのです。あるいはア

パシーの特徴は「本人は困らない」が「周りが困る」ともいえます。というのも、アパシーになったご本人が急にのほほんとなんか何もしようとなくなり、むしろ周りのご家族が「今までこんなに働き者だったのに、急に何もしなくなった」と心配されて、病院にいらっしゃることがあるからです。そしてうつ病は「本人も周りも苦しんで困る」ので、その点でアパシーと違います。

皆さんの周りで、これまでと違ってこのような状態になった方がいらっしゃった場合、注意していただく必要があるかもしれません。適切な治療で、意欲を戻すことができるかもしれないからです。ただし、私のように「もともとやる気がない」のは元来の性格であって、アパシーという症状ではありませんから「治療でなおる」ことはありませんのであしからず。

Marin, R.S.: Apathy: A neuropsychiatric syndrome. J Neuropsychiatry Clin Neurosci. 3; 243-254, 1991

Sato, S., Asada, T.: Sertraline-Induced Apathy Syndrome. J Neuropsychiatry Clin Neurosci 23; E19, 2011

図：うつ病とアパシーの違いと共通点

